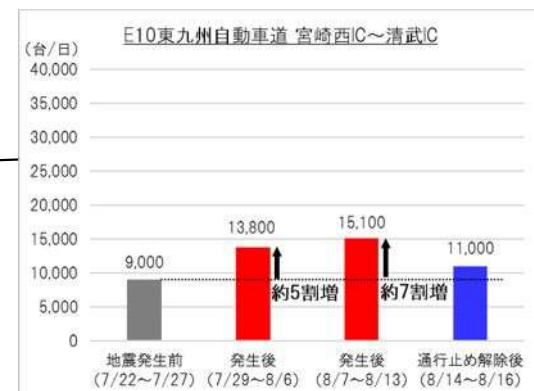


令和8年熊本地震の影響に伴う広域う回と通行止め解除の効果

〔1〕 E3 九州自動車道、E10 東九州自動車道および E34 大分自動車道の交通量

◇熊本地震の影響により通行止めとなっていた九州自動車道では、城南スマート IC～松橋 IC 間の交通量が通行止め期間中に地震発生前と比べて約 5～6 割(約 2 万台/日)減少していましたが、通行止め解除後は地震発生前と同程度まで回復しました。

◇また、通行止め期間中の東九州自動車道では交通量が大幅に増加し、広域う回路として機能しました。通行止め解除後は、南部区間を中心に交通量が約 4 千台/日減少し、九州自動車道への交通転換が生じたものと考えられます。

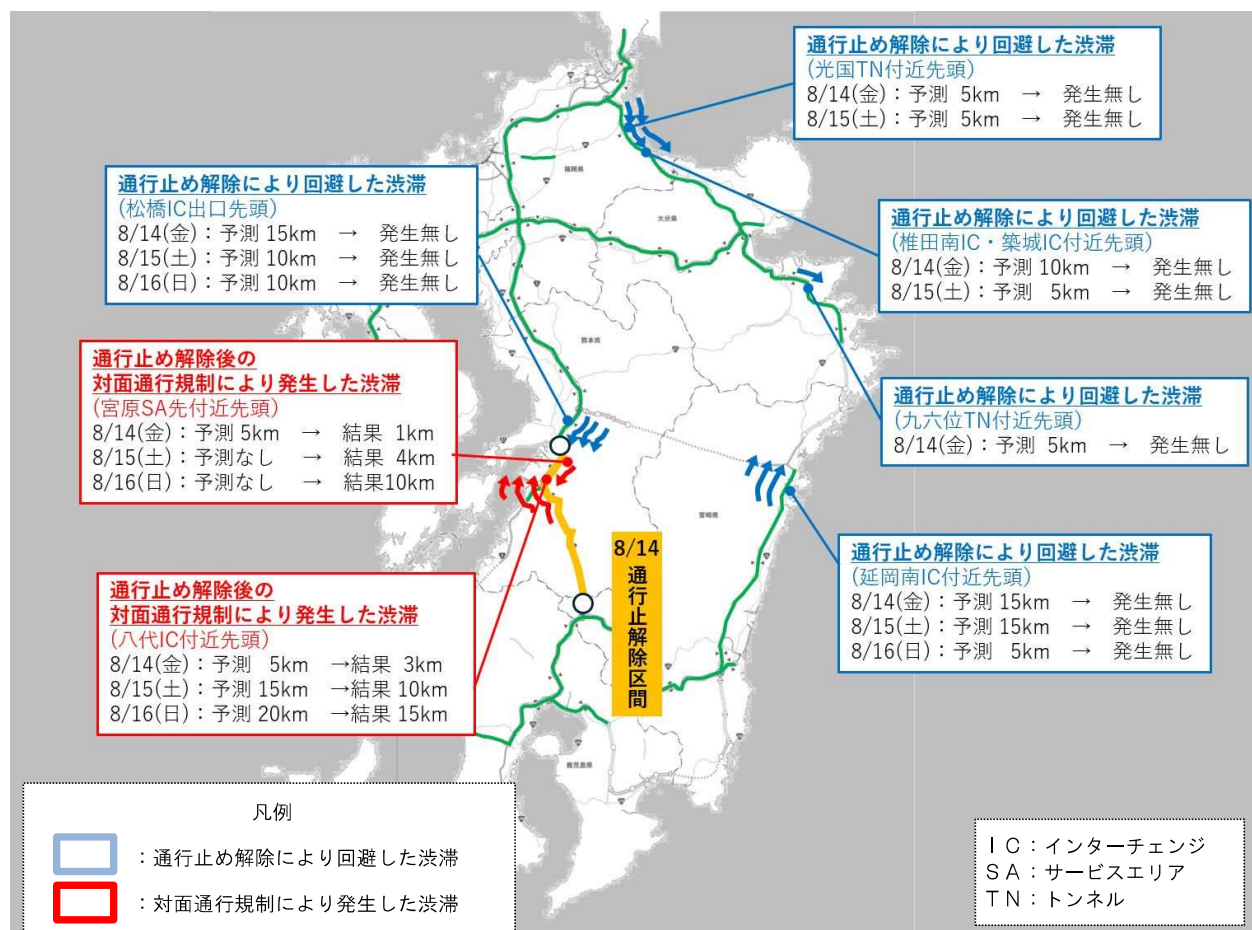


※各 IC 間交通量の増減は地震発生前と比較した値

〔2〕熊本地震の影響に伴う渋滞予測と実績の比較

◇九州自動車道(松橋IC～えびのIC)の通行止め解除後は、対面通行規制区間を先頭とする渋滞予測 4 回に対し 6 回発生しました。

◇九州自動車道(松橋IC～えびのIC)の通行止め期間中は、東九州自動車道への交通転換に伴い、東九州自動車道で 8 回の渋滞を予測していましたが、九州自動車道(松橋IC～えびのIC)の通行止めを 8 月 14 日(金曜)6 時に早期解除したことにより、渋滞は発生しませんでした。



渋滞予測と実績の比較(九州自動車道)



渋滞予測と実績の比較(東九州自動車道)

